

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	佐々木 雅則
------	----	-----	--------------	-----	--------

【関係者評価】

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた。	C	あまり目標を達成することができなかった。
B	おおむね目標を達成することができた。	D	ほとんど目標を達成することができなかった。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) <守る> 安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	御意見
	安全・安心を守る学校組織の機能充実				
ア	(ア) 予防的な安全確認によるリスク管理	・危険箇所を把握し、児童生徒の安全を守るため対策を取ることができたと答える教職員90%以上。	A	A (100%)	・古い建物なので、安全点検の重要さを感じます。とても丁寧に行っていると思います。 ・台風情報が出た時、児童生徒の安全を第一に考え、休校にしたのは良いと思います。
	(イ) 発災時の初動体制共有と1次避難後の対応整備	・全教職員が初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒の避難誘導に当たることができたと答える教職員100%。	A	A (100%)	・災害や防犯など、想定外の事が起きる可能性が高いため、今後も様々な訓練を行い、生徒や先生方の安全第一で考え、取り組んでいただければと思います。 ・山に囲まれ、川も近くにあり、災害が起きた時にどうするかは、たくさんの想定が必要です。職員が落ち着いて行動することで、子どもも安心して避難できます。 ・全教職員が、安全管理を共有し、日頃からいつ起きても大丈夫なようにしている。
	人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援				
イ	(ア) 一人一人の人権意識向上と共有	・体罰等不適切な指導を未然に防ごうと意識したと答える教員100%。	A	A (100%)	・日頃から先生方が笑顔で関わり、温かい声掛けをしている姿をよく見ます。子ども一人一人の思いや気持ちが尊重される教育をこれからも大切にしてほしいと思います。 ・研修会など行うことで、意識が高まるのはいいことだと思いました。 ・教職員と児童生徒に信頼関係があるなど、授業を拝見した時、感じました。
	(イ) 人権教育年間計画の活用	・人権教育年間計画に則り、児童生徒への支援・指導を行うことができたと答える教員90%以上。	A	A (100%)	・学校運営協議会を開催し、いろいろな意見交換をして年間計画を見直し、振り返りをして教員が指導を行うことができたことは、良いと思う。

様式第5号

(2) <育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け、個に応じた指導・支援を展開する。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
アセスメントによる課題把握に基づく指導支援					
ア	(ア) 個の課題に応じた専門性の高い指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたとする教員80%以上。 ・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じた児童生徒が80%以上。 	A	A (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に取り組んでみたいと思える授業内容がされていると感じました。 ・情報機器の活用はわかりやすく、子どもも興味を持ちやすいので、授業を楽しめていいですが、使いこなすようになるのは大変ですね。とても上手に活用していますね。 ・引き続きアセスメントを行い、児童生徒一人一人の状態、環境を把握して欲しい。
年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用					
イ	(ア) 系統性を考えたキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各段階でキャリア教育を意識した単元が設定され、指導に生かすことができたとする教員80%以上。 	B	A (80%)	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか役立てるものになるまでには検討しながらやっていくので時間がかかりますが、今後に期待します。 ・児童生徒が将来を考え、得意なこと、苦手なことを記録し、その児童にあう職場に導いて欲しい。

(3) <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」を目指す。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
学校間交流における方法・共同学習の工夫					
ア	(ア) 新たな方法での学校間交流推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部各学年において、伊東小との直接交流の回数が年間1回以上。 ・中学部で伊東北中との共同学習の回数が年間4回以上。 	A	A (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧旭小に移転したことにより、心配ではありましたが、変わらず交流ができていることに安心しております。 ・交流が、引っ越しやコロナが落ち着き、ようやく進んだ気がします。 ・互いに相手を思いやる気持ちを持って準備に取り組み、達成感を感じることができて良いと思いました。 ・いろいろな人とのコミュニケーションは良いと思います。特別支援学校児童生徒だけでなく、伊東小児童、北中生徒も交流を通して学ぶことができています。
地域と一層の連携促進、地域資源の活用推進					
イ	(ア) 地域の分校理解推進。新たな地域資源の活用。	<ul style="list-style-type: none"> ・新校地周辺の方と共に学ぶ場が年間2回以上。 ・湯の花商店街との交流活動が年間2回以上。 	A	A (80%)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務負担を感じる教職員がいるならば、活動量を減らすことも考えるべきなのではないか。 ・学校見学会で学校を知ってもらい、風通しの良い関係ができていっているように感じます。 ・毎年行っていますが、生徒さんたちの七夕飾りは、商店街の人たちも喜んでいきます。

様式第5号

ウ	(ア)地域のニーズ把握と教育力向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会等を通じセンタースターの役割の説明が行われた回数が年間2回以上。 ・利用後に支援が役に立ったと答える機関80%以上。 	A	A (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東市・熱海市教育委員会との連携は、児童生徒の情報を提供できるということで、より良い支援を受けることができそうです。
---	----------------------	---	---	-------------	---

(4) <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、仕事を通して自己実現できる環境を作る。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善					
ア	(ア)不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事要因と防止のための注意点が共有され、不祥事ゼロを目指したと答える教職員100%。 	A	A (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たち一人一人の意識を高めることができ、いいことだと思います。 ・日頃から共有し合って、不祥事ゼロを目指していて、素晴らしい。
	(イ)教育課程全体を見通した行事計画策定と会議等時間管理徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、学部会、分掌課会60分を超えないよう、時間を意識したと答える教職員100%。 	A	A (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の負担が少しでも軽減され、安心して子どもたちと向き合える環境が整うことを今後も願っております。 ・研修や会議が多いので、時間内に終わるようまとめるのは必要です。やること(授業の準備)は時間内に終わることができるのですか？ ・限られた時間の中で、会議等を行なえたことは良いと思う。
職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成					
イ	(ア)個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に参画できたと答える教職員80%以上。 ・グループワークの効果があつたと答える教職員80%以上。 	B	A (80%)	<ul style="list-style-type: none"> ・若い先生が増えたと感じていますが、若い先生方と職員それぞれの強みが生かされ、チームとして子どもたちを支える学校であり続けることを願っております。 ・「誰かがやってくれる」ではなく、チームで言い合いながらできるのは、同じ支援をしてあげることにもつながるので、園でもやっていますが、なかなか難しいです。やはり個の意識ですね。 ・教職員個々の強みを、自分でわからないことも他の教職員が教えてくれる環境は、良いと思う。